

1. はじめにー本プロジェクトの概要と課題構成

概要

我が国における野生鳥獣による森林被害面積は全国で5,160 ha（令和5年度）となっており、そのうちの6割をニホンジカ（以下シカ）による森林被害が占め、再造林や適切な森林整備の実施に際しての問題となります。この結果、森林所有者の林業経営意欲を低下させるとともに、土壌流出等により森林の有する公益的機能の発揮に影響を与えるおそれがあります。造林地における林業被害の軽減については、防御と捕獲の両輪による対策が必要です。防御について、防鹿柵の設置や単木保護資材の活用などの防御対策を講じることとともに、シカの個体数を適正に管理することが必要です。

シカの個体数は戦後増加し平成26年度にピークとなり、その後はほぼ一定で推移しています。その理由としては、狩猟に加えて許可捕獲により、近年、多くの個体を捕獲してきたことによります。しかし、シカの個体数を減少させるには、より効果的な捕獲を行うための技術開発が必要です。

令和4年度から実施した交付金プロジェクト「低密度・高密度地域それぞれに対応したニホンジカの誘引・捕獲支援技術の開発」では、シカ誘引と捕獲の効率を向上させてシカ密度の減少を実現させるためのシカの行動・生理特性の解明に取り組んできました。本成果はそれらの成果を取りまとめたものです。シカが低密度で生息する東北奥羽山系では越冬適地を推定する手法を開発しました。また、シカが高密度で生息する九州では、塩水を用いてメスジカを誘引する条件を明らかにしました。これらの成果が今後、全国各地で行われる効率的な捕獲対策を検討する際に少しでも参考になればと思います。

課題構成

